



がんばりかたは十人十色

今月の1枚は、正月遊びを楽しむ子どもたちです。AI時代の子ども達も、こま回しやけん玉にちゃんと熱中するのは興味深いです。試行錯誤する子どもたちの姿を見ながら、『頑張ること』について考えてみました。お手伝いや身の回りのこと、下の子のお世話や園行事など、大人の求める『こどもの頑張り』は多岐に渡ります。頑張ることが育ちに繋がる、という価値観は、教育現場にも根強く残る考えです。それ自体は否定しませんが、『頑張る』の意味を広くとりたいなと感じます。行事や活動に楽しみを見出せない子や、頑張り（と大人が感じる行動）を表に出せない子がいます。やりたくない事を我慢する頑張りもありますが、したくない事を大人に表明することもまた頑張りです。イヤだと思える事を表明することは、大人でも簡単ではありません。子どもは興味があることや好きな事にはしぜんと体が動きます。好きな事がみんな違って当たり前、頑張り方が違うのも当たり前。その子が何が好きで、どんな頑張り方をしているのか、それに気づける大人でありたいです。 山田 裕宇記